あらこうつうしん
# 新高通信

令和４年３月１８日発行

第７６号

秋田県立新屋高等学校

## 新屋高校の歴史抄そして今後への期待

校長　根　　義　鎮

平成７年４月、新屋高校への最初の赴任。とても元気な生徒が多い学校でした。その頃はクラス数が１学年８学級（最大は１０学級だったそうです）と、現在と比べると大規模校に属するレベルでした。生徒が多い分、校内にも活気があり、これからこの学校の伝統を創っていくのだという意気込みが感じられたものです。

赴任当初は校歌の一節にある「緑なす松の丘」のとおり、辺り一面の松林でした。（現在は残念なことに松食い虫の食害でまばらではありますが）現在でもそうですが、その当時は今まで以上に自然豊かな小高い丘の上の学校という感じで、校舎もまだ新しく、中央の階段を中心に放射状に教室棟が伸びていく形はとても斬新な設計だと感じました。

本校は昭和５８年、「新屋の地に高校を」という地元の願いで設置された学校です。実は、昭和５４年天王町追分の地に秋田西高校が設置された時、設置場所を巡って争った経緯があります。その競争に敗れとても悔しい思いをし、その４年後に念願叶って新屋高校が設置されたそうです。そのような地元住民の大きな願いのもと、設置された学校だったということを知ってもらいたいと思います。それから３８年、校舎はかなり老朽化してきましたが、生徒の活躍により、輝かしい歴史を積み重ねてきました。

来年度の新入生からは新しい制服となります。見た目の良さやジェンダーレスが関心の的になっていますが、機能的にも大変素晴らしいものに仕上がっています。３年後の４０周年には全学年がその制服を着て周年行事を迎えることになります。表面上の変化だけではなく、内面的な変化も期待します。

２年前、新屋高校に赴任が決まった時の喜びとこれからへの期待感は非常に大きいものでした。赴任してからは、皆さんが将来社会で有用な人材として活躍できることを想定して教育活動をしてきたつもりです。是非、その力を社会の場で発揮してください。

教員生活の半分以上の１８年間（本当は設立当初にも１年在職していましたので、厳密には１９年ですが）を過ごした新屋高校には大きな思い入れがあります。これからは外部からの一応援者として常に活躍を注目していきたいと思っています。今後ますますの活躍を期待しています。

## 晴れやかに169名の巣立ち

3月１日、令和３年度卒業式が行われました。今年度も新型コロナウイルス感染防止のため１・２年生の参列は見送られましたが、来賓に秋田県知事佐竹敬久様を迎え、厳かに式典を挙行することができました。

卒業証書が授与された後、校長の式辞の中で「本校で身に付けた忍耐力や批判的思考力は今後の財産になり、努力したことは確実な力に結びついていく」と話がありました。佐竹知事より「秋田県を県内外から支える有為な人材になって欲しい、自らの人生を悔いなく」とはなむけの言葉が贈られました。

在校生を代表した２年生の菅原るかさんが送辞で「先輩方の姿からは、変わりゆく新屋高校を感じることができた。先輩方のように優しさと温かさをもって新入生を迎え、たくさんの新しいことに挑戦していきたい」と感謝の意を伝えました。これに対し卒業生を代表し、須田琳人さんが「コロナ禍でも、創意工夫を加えることによって、様々な学校行事を実施できたという自信や達成感を得られた。今後さまざまな壁にぶつかってしまうかもしれないが、この学校で培った周りと協力してアイディアを出し実行する力を役立てていきたい。」と答辞を述べました。卒業生の皆さんの今後の御活躍を願います。

## 今年度の進路状況について

進路指導主事　石塚　道康

国公立大学の前期入試の発表を終え、多くの卒業生が進路を決定することになりました。国公立大学進学者は７名（昨年８名）、私立大学進学者は４２名（昨年５８名）はという結果となりました。短期大学進学者２２名（昨年２２名）、公務員は７名（昨年６名）と増えました。民間就職も１６名全員が内定を勝ち取り、内定率１００％でした。本年は新型コロナウイルス感染症の大きな影響もなく、対策を講じながら通常通り実施された試験が大半でした。どの進路を選択しようと最後は地道に粘り強く努力したことが結果に結び付いているようです。進路先での活躍を願ってやみません。

進路決定状況（卒業生１６９名）　　3月11日現在

| 進路状況 | 国立大学 | 公立大学 | 私立大学 | 短大 | 専門学校 | 民間県外 | 民間県内 | 公務員 | 未定 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 内定者数 | １ | ６ | ４２ | ２２ | ６２ | １ | １５ | ７ | １３ |

---

## 「探究力」育成を目指して

企画研修部　三浦　朋子

本校は令和元年、令和２年度の２年間秋田県探究活動実践モデル校の指定を受けカリキュラム・マネジメントに基づく「探究力」育成のための研究実践に取り組みました。指定校としての実績をもとに、現在もなおキャリア総探委員会が各学年の橋渡しをしながら、３年間を見通した本校独自の探究活動のあり方を模索してるところです。

特に本校では「地域の学校」としての強みを生かして、「総合的な探究の時間」では１学年「地域を知る」、２学年「地域で活動する」、３学年「地域に貢献する」というテーマのもと探究活動を行っています。その中で、研究ための基礎知識を学んだり、地域で活躍されている方からの講演を聴いたり、フィールドワークを実施したりしています。学年ともそれらの過程で生徒たちが考えた課題の中から取り組みたいテーマを１つ決めて研究活動を行ってきました。昨年までの学校としての取り組みに加え、秋田県SDGｓパートナー制度に登録し、複眼的視点を持ち学校外での活動の幅も広げようとしています。
学年ごとの研究成果の発表会を実施しておりますが、来る３月１７日には１学年、２学年の交流会を計画しています。代表グループ、生徒が全体に１年間の研究を発表する予定です。今後は校内のみならず、地域へも本校の探究活動を発信するなど活動の幅を広げていきと考えています。

## 保健室より

福原　泰子

今年度の保健室来室者数は１３７７名（３月４日現在：内科的理由１１２９名、外科的理由２４８名）で、昨年度（７６３名）より増大しました。その理由の一つには、秋以降コロナワクチン接種後の体調不良者が続発するなど、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったように思います。

また、感染症と確定された出席停止者数は、１３名（新型コロナウイルス感染症１１名、感染性胃腸炎２名）でした。確定された出席停止者数は例年と同程度です。新型コロナは日常生活を送っていれば、どこかで感染してしまう可能性が全員にあります。『コロナがゼロ』ではなく、『集団感染に繋がらない』ように気をつけていきたいものです。

来室者の内科的理由の第一位は頭痛。腹痛、生理痛、嘔気…と続きます。症状の背景には、心因的な理由がある場合もありますが、生活習慣の基本である食事、睡眠、運動の習慣を整えてみてください。体の土台をしっかり作った上で、それぞれの目標に向かって進んでください。

外科的理由の第一位は擦過傷。突き指、打撲…と続きます。「災害共済給付」申請者は４６件。ケガをしないように気をつけましょう。